

令和8年 第8回

川西市教育委員会（定例会）議事録

川 西 市 教 育 委 員 会

|                |      |
|----------------|------|
| ○ 会議日程・付議事件    | 1    |
| ○ 出席者          | 2    |
| ○ 説明のため出席を求めた者 | 3    |
| ○ 議事録作成者       | 3    |
| ○ 議案等審議結果      | 4    |
| ○ 会議の顛末        | 5～21 |

○ 会議日程・付議事件

会議日時 令和8年4月16日（木） 午後2時30分

場 所 川西市役所 4階 庁議室

| 日程<br>番号 | 議 案<br>番 号 | 付 議 事 件                     | 備<br>考 |
|----------|------------|-----------------------------|--------|
| 1        |            | 議事録署名委員の選任                  |        |
| 2        |            | 前回議事録の承認                    |        |
| 3        |            | 教育委員の活動について                 |        |
| 4        |            | 諸報告 清和台地区の学校のあり方検討の進捗報告について |        |
| 5        |            | 諸報告 兵庫教育大学との包括連携協定について      |        |

○ 出席者

教 育 長 石 田 剛

委 員 治 部 陽 介  
(教育長職務代理者)

委 員 佐々木 歌織

委 員 金 子 愛

委 員 澤 野 幸 司

○ 説明のため出席を求めた者

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 教 育 推 進 部 長        | 岩脇 茂樹  |
| 教 育 推 進 部 理 事      | 株本 一男  |
| (教育保育・インクルーシブ推進担当) |        |
| 教 育 推 進 部 副 部 長    | 富本 幸二郎 |
| 教 育 推 進 部 副 部 長    | 三石 基文  |
| (教育保育・インクルーシブ推進担当) |        |
| 教 育 総 務 課 長        | 田中 秀弥  |
| 教 育 保 育 課 長        | 奥野 且久  |

○ 議事録作成者

|               |       |
|---------------|-------|
| 教 育 総 務 課 主 事 | 石塚 太樹 |
|---------------|-------|

○ 議案等審議結果

| 議 案<br>番 号 | 議 案 名 | 提 出<br>年 月 日 | 議 決<br>年 月 日 | 議 決<br>結 果 |
|------------|-------|--------------|--------------|------------|
|            | 議案なし  |              |              |            |

○ 会議の顚末

[開会 午後2時30分]

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 石田教育長          | <p>それでは、ただいまより、令和8年第8回川西市教育委員会（定例会）を開会します。</p> <p>まず初めに、「本日の出席者」を報告いたします。</p> <p>本日は、全員出席でございます。</p> <p>なお、「事務局職員の出欠」については事務局から報告をお願いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教育総務課長<br>（田中） | <p>本日の「事務局職員の出席」につきましてご報告申し上げます。</p> <p>本日は、議題に関係する職員が全員出席でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 石田教育長          | <p>本日の「議事日程」については、配付しております議事日程表のとおりであります。</p> <p>これより日程に入ります。</p> <p>日程第1「議事録署名委員の選任」を行います。</p> <p>教育長において、金子委員、佐々木委員を指名します。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p> <p>次に、日程第2「前回議事録の承認」でございますが、事務局において調製し、第5回臨時会、第6回定例会及び第7回臨時会の議事録の写しをお手元に配付していますので、事務局から説明をお願いします。</p>                                                                                                                                                                                                   |
| 教育総務課長<br>（田中） | <p>それでは、議事録についてご説明いたします。</p> <p>第5回臨時会の議事録につきましては、1ページに会議日程及び付議事件、2ページに出席者、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに議案等審議結果、5ページから議事録でございます。</p> <p>署名委員は、佐々木委員と澤野委員にご署名をいただいております。</p> <p>次に、第6回定例会の議事録につきましては、1ページに会議日程及び付議事件、2ページに出席者、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに議案等審議結果、5ページから議事録でございます。</p> <p>署名委員は、澤野委員と治部委員よりご署名をいただいております。</p> <p>最後に、第7回臨時会の議事録につきましては、1ページに会議日程及び付議事件、2ページに出席者、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに議案等審議結果、5ページから議事録でございます。</p> <p>署名委員は、治部委員と金子委員にご署名をいただいております。</p> |

石田教育長

説明は、以上でございます。

説明は終わりました。

ただいまの説明について、質疑はございませんか。よろしいですか。  
それでは、お諮りいたします。

第5回臨時会、第6回定例会及び第7回臨時会の議事録につきまして、これを承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

石田教育長

異議なしと認めます。

よって、「議事録」につきましては承認されました。

次に、日程第3「教育委員の活動について」であります。

事務局から報告をお願いします。

教育推進部長  
(岩脇)

それでは、3月分の教育委員の皆様の活動についてご報告いたします。

金子委員におかれましては、明峰中学校において、中学校給食献立意見交流会へ参加いただくとともに、市役所において、第2回生徒会交流会、地域クラブ意見交流会へご参加いただきました。

澤野委員におかれましては、加茂小学校において、加茂こども園・加茂小合同研修会で講話を行っていただきました。また、兵庫教育大学との連携協定に向けたオンライン会議に出席いただきました。

金子委員、澤野委員におかれましては、セオリアにおいて「ほっと・おしゃべり会」への参加をいただきました。

主なものではございますが、ご報告させていただきます。

石田教育長

それでは、ただいまの報告も含めまして、各教育委員から補足、意見、トピック等がありましたらお願いいたします。

まず、治部委員、ございますでしょうか。

治部委員

今月は特にございません。

石田教育長

昨日、県の教育委員会連合会の会議だと思うのですが、自然学校についての話題はどんな感じでしたか。

治部委員

そうですね、自然学校について意見2つに分かれていたと記憶しています。自然学校の期間を短くすることの是非を問うているようなディス

カッションが多かったと思います。多くのご参加の方が、自然学校を体験するということは教育上よいことだと思っているのですが、ただ、日数が長いことによって、子どもと保護者と教職員に負担が大きくなっている、体験をそのままにして宿泊日数を短くするという案を、現行のままか短くするかでいろいろ意見が分かれたという印象です。

石田教育長

ありがとうございます。

阪神7市1町の教育委員会、教育長の協議会では、7市1町が統一した形で、自然学校の選択制、4泊5日だけではなくて2泊3日にとか、3泊4日ということで、学校の需要に合わせて選択できるようにということで提案しています。それを受けて、教育委員会連合会でも協議を含めた意思確認等をしていただこうと思っています。次回10月くらいにもう一回話題になるということです。今度、県の都市教育長協議会があるので、そのときに改めて阪神7市1町から西宮が代表して提案していただくことになると思います。

昨年度、私も県に申入れをしましたが、基本的には現状のまま、4泊5日で進めてほしいということになっています。

ただ、手順として県の都市教育長としてどうなのかということを県教委からいただきましたので、意見のとりまとめをして、できれば今年度申入れをもう一回、県の都市教育長としてしたいと思っています。

4泊5日を2泊3日と言っているのではなく、4泊5日のところは4泊5日でもいいから、学校の規模と事情に応じて2泊3日を選択できるようにしてほしいということなので、内容から言えば、私はおおむね了解を得られるものと思っています。郡部は4泊5日を強く言われているところもあるようです。ただ、阪神7市1町については危機感が一緒ですので、教員数が少なくなっていること、学校の規模が小さくなって教員数が少なくなっているということ。したがって、自然学校に付き添える教職員も少ないし、4泊5日ですので、2泊3日ずつ分けたとしても、学校に残って授業する教職員も減っている。それから、子どもの人数が減っている、自然学校中のトラブル、非常に濃い関係で4泊5日過ごすことになるのでトラブル等が多発するということと、配慮の必要な子どもたちが非常に多いということで、市としての教職員の聞き取りでも、やはりちょっと負担になっていて選択制にしてほしいという意見が多いので、この意見を言っていこうと思います。できたら、私は自然学校行ったことがあるので、いいところもあればきびしいところもあると思ったりしています。教育委員も一回見ていただいて、どんな感じな

んか見たら、非常にしんどいです。このメンバーで4泊5日一緒に過ごすのは嫌だと思います。大人でも4泊5日一緒に過ごすのは、疲れると思います。だから、やっぱり体験として悪くないし、もともと、30年前40年前の事件を受けて兵庫県として取り組んだことは分かりますが、ただ、このやり方でずっといけるかって言ったら、私はもう厳しいと思っています。

また、連合会でのお話をまたよろしくお願いします。もし分からないことあったら、担当課からいい意見を言ってもらおうと思っています。

佐々木委員、何かございますでしょうか。

佐々木委員 すいません、今月は特にございません。

石田教育長 はい、ありがとうございます。

澤野委員、何かありますか。

澤野委員 加茂こども園、加茂小学校の合同研修会については、これまで同じような内容で講話を行って、今年6月に加茂小学校が公開授業を行うということもありまして、それに向けてという意味合いが色濃くなってきた研修会でした。この間、実は4月になってからも、昨日おとといでしたか、加茂小学校に行って、新入学生の子どもたちの様子、スタートカリキュラムの様子を参観しました。随分、先生方が前向きにと言いますか、就学前の教育保育の考え方を取り入れてやっていこうという、何かそういうマインドを持ちながら取り組んでいる様子が分かりました。多分、ご自身たちの価値観をマインドセットしていくためには、しばらく時間はかかりますけど、少し無理をされているということも感じるころはあったのですが、でも、取り入れてやっていこうという、そういう1年生だけではなく学校全体としてそういう取組をしていこうという雰囲気になってきて、随分この1年間で加茂小学校は変わってきたという感じをしたところでした。また後押しをしていきたいと思っています。

あと、兵庫教育大学とのオンライン会議については、また今日報告があると思いますが、本当に事務局の皆さん、スムーズに会議が進んだのではないかと思います。

あとは、ようやくスタートラインに立ちましたので、成果が上がるように、今後が大事になってくると思っています。

石田教育長 はい、ありがとうございます。

加茂小、それから加茂こども園の取組について、澤野教育委員にずっと継続的にフォローしていただいて、一昨日もそういうことで学校に入っていたという報告を聞いています。

教育委員協議会を加茂小でやろうかと言っています。そこで、校長先生からのレクチャーといえますか、進捗状況を聞き、授業の様子をもし見られたら見て、実際、生で加茂小の取り組みを見たいと思っています。

残念なことに、公開授業は、部長理事を含めて、私もですけど、一般質問の日と重なっています。この日程は正直どうかと思いながら、見に行けないのが非常に残念です。ぜひ参加していただいて、小学校も幼児教育保育から学ぼうとしているということは大事なことだと思います。

加茂こども園の園長には言ったのですが、発表するときにはいいものを見せないといけないとか、そういうことの気が先走らないように、問題提起をしてみんなで協議をする場であつたらいいのに、何かすごい授業をしています、すごい保育をしていますというようなところに研究会を位置付けるのはやめて、その中で出てきた課題をみんなで共有しながら話をするほうが、本当の意味の研修になるのではないかという話をしています。いいとか悪いとかではなくて、今抱えている成果と課題を洗い出せるようなものになればいいと思います。

兵教大については、この後、諸報告でありますので、それを受けて報告したいと思います。

金子委員、何かありますでしょうか。

金子委員

中学校給食の献立意見交流会に連続して参加させていただいているのですが、だんだん生徒さんからの意見が、あんまりはつきりしているといえますか、当初あつたような意見があまり出なくなってきたという印象でした。それはやっぱり最初のほうから出ていた意見をセンターの方々や先生たちが工夫というか改善された結果を、子どもたちのその様子が示しているのではないかと感じました。

今後、まだ意見交流会というのは続いていくと思うのですが、子どもたちがどういう意見を発表するかっていうのを、こういう形で意見出してくださいとかいうのも、最初に指示しといてあげると当日話しやすいと感じを受けました。

地域クラブ意見交流会については、金銭的な要求がまだ上がってくるなという感じでした。ユニフォーム代がかかるとかいろいろあるのですが、おっしゃっていること分かるなというところもあるし、私個人としては、自分で選んで活動していることに対して、どこまで公的な

お金の支援を要求するのかなというのが、ちょっと個人的には疑問に思った点です。やらされているわけではない、やっていることには、やっぱり自腹を切るっていうのがきらった言い方かと思うのですが、そういう負担はあってしかるべき気もしますが、でも、広く文化スポーツの振興のためには、公的な支援も必要なのかなと思ったりして聞いていました。

「ほっと・おしゃべり」会というのがさっき報告の中にあったのですが、月1回セオリアで保護者の方がスタッフと本音でそのときの悩みとか思いを話す会です。そこに澤野先生がご参加くださり、子どもさんたちの様子とかご自分の気持ちとかをかなり素直な言葉といいますか、ありのままの様子をお互いお話しになっていまして、このような意見交流ができる場があるっていうのは、保護者にとって、子どもたちにとってとてもいいと思ひまして、今後もずっと続いていくことを望んでいます。

石田教育長

ありがとうございました。

中学校給食については、それぞれの中学校に子どもたちの給食の意見をとりまとめる窓口を作ってもらうように依頼してできていると聞いています。それが、給食委員会なのか生徒会執行部なのか、それは学校毎に違うと思いますが、その窓口を明確にすることと、逆に言うと、それと、学校の意見のとりまとめ、その窓口、それから、市教委の給食課でどのようなサイクルできちっと意見の集約とか反映をしていくのかというそのサイクルを作るっていうのが、今年度の大きな仕事の一つと思っています。食に関しては様々なご意見がある中で、作り手、それから食べる側の思いがきちっと相互理解できるような、そういうような会になればいいと思っています。

地域クラブについては、以前お話ししましたように、国や県の補助メニューについては可能な限り使えるような感じで利用しているところです。市としても、地域クラブ、もう4月から始まりましたので、できるだけ支援していこうということでメニューを用意しているところです。あとは、実際に現場の声も聞きながら進めていくということが一つと、やはり子どもたちの思いなどを学校現場がきちっと聞けるようにということで、校園所長会、教頭会議、副園所長会議でも言いましたけど、窓口を明確にさせていただくことと、それを周知させていただくこと、できたら懇談等で子どもの思いを聞きながらやっていけるようにいけたらということで話をしています。教育委員会の中にコーディネーターを作っていますので、その方々に実際の場面を見ていただきながら指導助言をし

教育推進部副部長  
(富本)

ていく形になればいいと思っています。

それでは、教育委員の活動については以上とします。

続きまして、日程第4、「諸報告」であります。「清和台地区の学校のあり方検討の進捗報告について」事務局から報告をお願いします。

それでは、清和台地区の学校のあり方について、ご報告を申し上げます。

諸報告、資料の1枚目をご覧ください。

清和台地区の学校のあり方につきまして、これまでの検討内容を踏まえ、今後の方針につきましてご報告をさせていただきます。

報告の内容としましては、資料の1枚目記載のとおりでございますが、資料の2枚目をご覧ください。

教育委員会では、多様な価値観に触れ、互いを認め合い、協力し合う経験を通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばす教育環境をつくることが重要であると考えております。そのため、AからCの3パターンでこれまで検討をしてきましたが、多様な価値観に触れることのできる教育環境としては、C案の中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境が最適であり、保護者や地域の皆様にもご理解いただけたと考えております。

そのようなことから、清和台地区におきましては、清和台小学校と清和台南小学校の2校を統合するとともに、清和台中学校及び川西養護学校との多様な学びが可能な教育環境を目指すこととして、より具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

続いて、資料の3ページをご覧ください。

川西養護学校と清和台地区の保護者からいただいた意見につきまして、集約をしてまとめてございます。両保護者からは、教育環境として交流する機会を増やすことのできるC案が望ましいという意見を多数いただきました。今後、中学校及び特別支援学校との多様な学びが可能な教育環境を目指す方針について、保護者や地域住民の皆様にご丁寧に説明し、懸念点など、また意見交換を進めてまいりたいと考えております。

また、開校場所としては、C案が実現可能な場所として、清和台中学校と川西養護学校を合わせた敷地を候補地として検討し、皆様のご意見を伺ってまいりたいと考えております。なお、開校時期につきましては、校舎の改築など施設整備も含めると、準備におおむね6年程度を要するのではないかと今のところ見込んでおります。

C案につきましては、開校までに長期間を要することとなるため、単

学級への不安を抱く保護者から寄せられている「早く統合してほしい」という意見に対し、何らかの対応を検討する必要があると考えております。

教育委員会では、このような懸念点への対応方法などについて、引き続き保護者の皆様の意見を丁寧に向いながら、新たな清和台地域の市立学校の具体的なあり方を12月めどに決定していきたいと考えております。なお、今回ご報告させていただいた内容につきましては、今後、総合教育会議を行って、市長と共有をし、市議会にもご報告をし、7月の1週目をめどに地域説明会で清和台地域の皆様にお伝えする予定としております。

説明は以上でございます。ご協議よろしくお願いいたします。

石田教育長

説明は終わりました。

この際ですので、各教育委員にこの事務局からの提案についての意見を求めたいと思いますので、よろしくお願いします。

順番によろしいでしょうか。

そしたら、治部委員、お願いします。

治部委員

清和台地区の方向性について、教育委員会では適正な学校規模と小中一貫校のあり方を多側面から考察してきました。

例えば、児童生徒の人数、異年齢での交流、教職員の数、特別支援教育及び川西養護学校のあり方など、様々な観点を包括的に考える中で、私自身は、C案で進める原案に同意いたします。

一つの場所に異なる校種の児童生徒や教職員が集う環境を実現することで、子どもたちの発達的な課題の解消や、学校が抱える限られたリソースの有限、有効活用に寄与することを期待しております。

また、特別支援教育や川西養護学校の学びにおいても、学習者の個性や特性の理解と、個別に最適化された教え方や学び方に関して、様々な子どもたちと教職員が協働する機会につながると考えています。

同時に、信頼できる大人や仲間との育ちが、子どもたちの社会性を育てるという観点も大切であると考えます。そのため、学級や学年を越えて様々な人々との交流の機会が増える環境を整備してほしいと思います。

幼児教育保育においては、川西市では幼保連携型認定こども園の整備が進み、異年齢保育や教育と福祉の共存が実現しています。こども園の運営を参考にしながら、小学校、中学校、特別支援学校の共存環境を整

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | 備してほしいと思います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 石田教育長            | はい、ありがとうございました。<br>佐々木委員、よろしいですか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 佐々木委員            | 私もC案で進めていくということに同意したいと思います。<br>先ほど、多々事務局がおっしゃって言われていたように、ちょっと開校までに時間もかかりそうだという点は気にはなっております。<br>単学級に対して不安を感じていると回答された保護者の意見を踏まえたら、今の1年生がもしかすると卒業まで単学級のまま過ごすことになる可能性があると思う、それを懸念します。これからは、そういった懸念点について、保護者の意見も聞きながら、解決案を検討していただきたいと思いますと思っています。                                                                                          |
| 石田教育長            | はい、ありがとうございます。<br>澤野委員、何かございますでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 澤野委員             | 一番心配していたのが、その川西養護学校の保護者の方たちがどのような意見を持つのかと思っていたところ、このような意見集約の結果を見ると、非常に肯定的です。ですから、いろんな子どもたちと交流させたいという気持ちが強いのではないかと思います。そういうメリットのところに目が向いているということを今回のまとめを見ながら感じたところで、基本的にはやはり私もC案という考え方に同意して、これで進めていただくとしたいと思います。その中で、質問になってくるとはと思いますが、特に清和台中、清和台小、清和台南小、川西養護学校が同じ敷地内に存在することになるということになると思うのですが、最終的には、学校としては、いくつの学校が敷地内にあるということになるのでしょうか。 |
| 教育推進部副部長<br>(富本) | 敷地の中で複数の学校が存在するという形になりますが、今回の方針で進めますと、まず、清和台小学校と清和台南小学校が一つの小学校として新たに運営をするということとなります。また、清和台中学校と川西養護学校はそれぞれ独立した学校として引き続き運営をするということになりますので、結果的には、敷地内には小学校と中学校と特別支援学校という3つの学校が併設されるという形が基本となると考えております。以上でございます。                                                                                                                            |

石田教育長      基本という形ですので、例えば小学校同士は同一のところで学ぶとしても、義務教育学校とかになると、それはまたそれで小学校と小学校が一緒になるかってパターンも、一つのパターンにはなるとは思いますけど、基本的なベースは今言ったような3つの学校という考え方で進むと思います。

澤野委員      教育長が今言われたように、義務教育学校という可能性があるとするれば、2つの学校ということにもなりますし、3つの学校をベースにしながらということで理解できました。

単純に言うと、校長もパターンが3つあると思います。統合した小学校に校長が1人いる、中学校に1人いる、養護学校に1人いるっていうパターンもあれば、義務教育学校にならなくても、小中学校を小中一貫校にして、校長1人にして教頭を2人置くというパターンもある。つまり、学校のマネジメントという視点では、この学校数、何でこんなこと聞くのだろうと思われたかもしれないですけど、私としては、最終的な学校をどのように運営していくかというところも考えたときに、どのようなあり方がいいのかということも考えていく必要があると思ったところでは。

もう一つ別の視点から言いますと、新しい学校は、やっぱり以前からずっと議論してきましたし、先ほど治部委員、佐々木委員もおっしゃいました、金子委員もずっとおっしゃっていました多様な価値に触れるということがやはりコンセプトであったように思います。それは、やはりそういった中で、川西養護学校を含めて現在のカリキュラムと異なって、全く異なるわけじゃない、せっかく一緒に敷地内にあるというメリットを生かしたときに、子どもたちにとってどのような教育プログラムが提供されることになるのか、具体的にイメージできるような活動を今の段階で、もし事務局がイメージしているのであれば、ちょっとお話しいたきたいと思っていますところでは。

教育推進部副部長  
(富本)      どのような教育プログラムを提供していくかというところにつきましては、最終的には新しい学校のコンセプトを子どもたちや保護者、地域や教職員の皆さんと一緒に、まずは話し合いをしながら最終的には決めていきたいとは考えておりますが、例えばではありますが、まず、川西養護学校との教育プログラムでは、小中学校の児童生徒と川西養護学校の児童生徒と一緒に活動する機会を増やしていくことは考えられるかなと思います。具体的には、例えば文化祭や卒業式などの行事を合同

で実施をすることや、朝の会や、もし共同で実施可能な教科があればその授業を共に行うなどということが考えられるかなと思います。

次に、小学校と中学校の連携した教育プログラムでは、9年間を見通した学校独自のカリキュラムを編成することが考えられます。例えば、他市の事例では、小学校1年生から英語科を導入することや、地域の歴史などについて学ぶ「ふるさと科」などを設定して、1年生から9年生、9年間かけて学びを深めていくというような、そういった事例もございますので、それらのものなどを参考にして、関係者と検討をして考えていきたいと考えております。

以上です。

石田教育長

同一の敷地内に学校を作ることの意味というのが、その交流であるとか、教育課程の編成とかに工夫ができるという意味でメリットが大きいいし、以前に澤野教育委員も言っていたんですけど、地域の方々もそこに集うような形になるので、そういった面でも多様な学びができるような教育課程で考えていきたいと思います。

ベースは、準備委員会等、みたいなものをやっぱり作って、教育委員会の事務局だけではなく、一緒に練り上げてコンセプトを考えていくということが大事と思っています。

澤野委員

ありがとうございました。

私が期待するイメージと近かったので、大変ありがたいと思います。

ハード面は、結構施設はどのように作るかと言って、住民の方とか保護者の方とか子どもたちの意見も聞くんですけど、もう一つ、ソフト、いわゆるプログラムの中に、川西市がずっとやっているように、子どもたちの意見を聞くということをやっているように、子どもたちがどのようにして学んでいきたいか、地域の方がこんな子どもになってほしいからこんなことを学んでほしいとか、そういったソフトのところを作るときにも、そういった意見が盛り込まれて、「皆さんで作ってきた学校だ」というイメージが出来上がってくると、このソフトの中に、いわゆるカリキュラムの中にそういったものが埋め込まれていくと、より関心といいますか、地域の方にとっても我が学校と、新しい学校なのだけど我が学校と思っていただけたらと思うところでしたが、またその辺考えていただければと思います。

最後、もう一つ聞きたいのが、今、話をしていることっていうのは、結構ハードルの高い話を僕はしていると思っているのです。結局、これ

を作っていくのは、いわゆる学校の教育課程っていうのは校長が責任者ですので、校長先生を中心に学校の先生方がつくっていくわけですけど、やはり新しいものをつくるってバラ色の世界だけではなくて、非常に高い専門性だとか困難さも当然出てくる、特に養護学校とのコラボレーションにおいてはそういった専門性が非常に、どちらにもメリットのあるプログラムの開発には高度な専門性が必要になってくるのだらうと思ったときに、こういった学校の先生方のカリキュラム開発だとか、そういったことに対する支援みたいなことなんか考えてらっしゃればお聞かせ願えるとありがたいです。

教育推進部副部長  
(富本)

ご指摘のとおり、統合を行うことで新たなカリキュラムの検討であるとか、様々な調整が必要になってくるということは予想されるかなと考えています。

我々としては、そのために国や県で認められている統合の加配の配置制度、これを活用しまして、まず人的な支援を行っていきたいと考えております。

さらに、教育委員会としても小中一貫校のカリキュラムについて、我々も研究を進めて、新たなカリキュラムの開発も含めて学校運営を支援していく体制というのをしっかり整えていきたいと。それを目指して取り組んでいきたいと考えております。

石田教育長

今もありましたし、そして今現在進んでいる新しい学習指導要領の答申も出て、やはり2030年ぐらいから本格実施になっていく、そういうところも見据えながら、クロスカリキュラム的な考え方であるとか、探究的な考え方であるとか、そういうものと小中一貫教育とどう結びつけていくかということですけど、私自身、やはり市内でできた同一敷地内の学校ですので、小中一貫教育なのか義務教育学校になるのか、いずれにしても、学びの場としては非常に貴重な場ではあると思うので、指導主事も含めてですけど、幼児教育保育の職員であるとか、学校教育の職員でコアなチームで勉強会しながらやっていくという、今のコアシステムみたいなものも運用しながら研究を進めていくことは大事で、そういうフィールドになってもいいかなと思っているところです。

ありがとうございました。

すみません、最後になりましたが、金子委員、お願いします。

金子委員

多様な価値観に触れ、互いを認め合い、協力し合う経験を通じて、一

人ひとりの資質を伸ばす教育環境をつくるのがこの度の新しい学校の目的です。この目的に、私は深く賛同いたします。

社会は多様性に満ちています。中学校や特別支援学校とともに学ぶ環境は、より実社会に近く、その中で幼少期から学びを進めていくことが、義務教育から先の社会でのよりよい生き方につながると思うからです。むしろ、多様な価値観に触れることをうたいながら、中学校や特別支援学校と一緒にしないことのほうが不自然に感じます。ぜひ、この方針で進めていただけることを願っております。懸念されるのは、年齢や体格、体力の異なる集団生活の安全をどう確保するのかという点だと思います。様々な立場の方から丁寧に意見を伺って、専門家の方のご意見を反映させながら進めていただきたいと思います。

石田教育長

ありがとうございました。

何か補足の意見とかよろしいですか。

一応、基本的には諸報告という形ですけれども、基本的な方針はきちっとその都度その都度決めていく必要があると思っています。その意味で、事務局が言いましたC案を基に進めていくということで、教育委員会全体としての同意は得られたと思います。

先ほども事務局からありましたように、敷地については通常に考えると、やはり今ある清和台中学校や川西養護学校の敷地を活用するというのが基本的な考え方ですけれども、それをベースに、いろんな聞き取りや保護者、教職員、それから子どもたちの意見も聞き取りながら、地域の人の意見も説明会等開きながら進めていきたいと思いますので、その決定についてはまだちょっと時間をいただきたいと思います。基本的にはC案をもって進めるということで、いきたいと思います。

ありがとうございました。

続きまして、日程第5、「諸報告」、「兵庫教育大学との包括連携協定について」事務局から報告をお願いします。

教育推進部副部長  
(教育保育・  
インクルーシ  
ブ推進担当)  
(三石)

それでは、兵庫教育大学との包括連携協定についてご報告申し上げます。

恐れ入りますが、資料の5ページをご覧ください。

本件は、資料にございますとおり、本年4月6日付けで川西市広報広聴課から報道関係者の皆様へニュースリリースした内容となります。

川西市では、川西市教育委員会と国立大学法人兵庫教育大学が、令和8年3月末に連携協定を締結いたしました。令和8年度からは、同大学

から学術的な助言をいただくにとどまらず、それぞれの持つ資源や特性を生かしながら、相互に連携・協力を行ってまいります。

今回の協定で定められました主な事項は、大きく分けて以下の4点でございます。

1点目は、先導的・革新的な教職科目の汎用化に関する実施連携です。

2点目は、子ども主体の教育保育に関する教育方法、教材等の開発研究、教員研修事業等に関する連携協定です。

3点目は、本事業の運営のために設置される、兵庫教育大学教員養成フラッグシップ大学コンソーシアムへの参加・協力です。

4点目は、その他双方が合意した取組となります。

今後は、これらの協定事項に基づき、特に以下の具体的な取組を手始めに、双方合意のもと、連携・協力を行ってまいります。

まず1つ目は、「探究学習・多様な学習方法の開発・実践」です。

これには、カリキュラム設計や指導案作成への専門的指導・助言、また、探究プロセスにおける子どもの「問い」を深める指導法や評価手法の共同研究、さらには先進的な教育実践事例の共有と応用検討などが含まれます。

もう一つは、「探究学習を促進する教室環境整備への指導助言」です。

具体的には、子どもの主体性を引き出す空間デザイン。例えば、フレキシブルな学習スペースや多様な居場所の検討、また、ICT機器を効果的に活用した探究学習への技術的・教育的助言などを兵庫教育大学の専門的な知見をいただきながら進めてまいります。

本協定を通じて、本市の教育・保育の質のさらなる向上、そして、子ども主体の教育保育の推進を行ってまいります。

報告は以上となります。

石田教育長

報告は終わりました。

以前もちょっとお話はさせていただいたと思うのですが、何かご質問ありますでしょうか。

どうぞ、治部委員。

治部委員

今、4つ上げていただいた中の1番目、「先導的・革新的な教職科目の汎用化」というのは、具体的にどんなものが含まれているのですか。

教育推進部副部長  
(教育保育・

今回の連携協定につきましては、いろいろな方法がございまして、何か1つテーマを絞ってする方法と、大きく包括的にする方法ということ



もし兵庫教育大との連携の中でサポートできたらうれしいと思いました。それがもしかしたら1番の革新的な教職科目に入ると思って質問させてもらいました。

というのも、例えばユニセフの報告とかを読んでいると、38か国中、日本の児童生徒の精神的な満足度は最下位だった気がします。それぐらい学力とか身体的な健康と、生活に対する満足度などの精神面に関する事との間には大きな差があるという、報告だったと記憶しています。そこが今後兵庫教育大学との計画で何かプラスになったらうれしいと思った次第です。

石田教育長

ありがとうございます。

兵教大から提示していただく研究課題もあるのですが、教育委員会からこういう研究をしてみたいけどということであれば、非常に間口の広い大学でありますので、今言っているのは、ウェルビーイングになるのか、あれなのですけど、そういう満足感とか心の安定とか、そういうものも研究フィールドの一つだと思いますし、よく治部委員、専門でもありますけど、特別支援教育なんかについて言えば、もう随分昔から連携しているので、そういうところをさらに深めていければと思っています。

ほかに何かよろしいですか。

前もお話しいただいたのですが、澤野委員にはいろいろ間に入ってもらって、澤野委員が向こうで教授としてやられているということは大きいと思うので、何かありましたら、コメントお願いします。

澤野委員

コメントでなくて、それこそ大学にとっても社会貢献の一つですので、やはり川西市とこうやって大学が連携協定を結んで成果が上がるということは、大学の価値も上がっていくことになりますので、そういった意味では本当使い倒したほうがいいと思いますので、いろんなことを投げたらいいいです。

先ほど、新しい清和台の学校作るときのカリキュラム開発辺りも、いろいろ知見をもらうのもいいです。カリキュラムマネジメントの専門家もいますので、そういった俯瞰的に自分たちがやっていることを見て、この辺はどうなのだっていうことを指摘してもらうだけでも随分違います。先生たちの負担も少し軽減するような働きかけもあってもいいのかもしれないと思ったところです。

石田教育長

ありがとうございました。

余談になるのですが、包括連携協定を結びに行ったときに、向こうの学長、副学長との懇談が非常に面白かったです。前も言いましたが、学びってというのは教育の環境によってもまた変わるのだということで、こういう教育環境のそこではこういう学びが成立するという学術が、論文があるという話、すごく面白かったです。だから、固定式の机で黒板使った授業とかではなく、フリーアドレスで、学校外とも結びついてとか、いろんなことがありましたね。

それから、思いを形にできるようないろんなものがありました。3Dプリンターだけではなく、プリントアウトするいろんなものがあって、頭の中に描いているものが形になるような様々な機器があったと思って、それも非常に面白かったと思います。

よろしいでしょうか、ありがとうございました。

それでは、本日の議事は全て終了しました。

次回は、5月26日火曜日、10時から、庁議室において定例会を開催予定としております。

これをもちまして、令和8年第8回川西市教育委員会定例会を閉会いたします。

お疲れさまでした。ありがとうございました。

[閉会 午後3時21分]

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めましたので、ここに署名いたします。

令和8年4月16日

署名委員      金子      愛      ㊟

佐々木      歌織      ㊟